

浸透圧				495000	
				担当部署	
OSM				生化	
検査オーダー					
患者同意に関する要求事項			特記事項なし		
オーダーリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*1.頻用→			
	2	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→生化学→			
	3	電子カルテ→指示①→検査→*3.緊急→			
	4				
	5				
検査に影響する臨床情報			特記事項なし		
検査受付時間			緊急対応(24 時間)		
検体採取・搬送・保存					
患者の事前準備事項			特記事項なし		
検体採取の特別なタイミング			特記事項なし		
検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	他材料	10 青	分離剤	8	mL
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-
検体搬送条件			室温		
検体受入不可基準			1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体		
保管検体の保存期間			冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)		
検査結果・報告					

検査室の所在地		病院棟 3 階 中央検査部			
測定時間		当日中～翌日			
生物学的基準範囲		275-290mOSM 臨床検査法提要 改訂第 34 版、667			
臨床判断値		設定なし			
基準値					単位 mOSM/L
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
275	290	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因		特記事項なし			
臨床的意義		浸透圧は溶媒中に存在する溶質のモル数を表している。濃淡 2 種の溶液が溶質を通さない半透膜を隔てて接しているとき、溶媒が低濃度溶液から高濃度溶液の方へ拡散しようと生ずる圧力を浸透圧といい、溶液 1kg 中に 1mOsm の溶質が含まれる場合、mOsm/kg で表す。血清では Na と Cl が浸透圧形成の中心をなす Na は体液量の維持と細胞外液の浸透圧を規定するイオンであり、浸透圧の計算値は以下の式を用いる。 浸透圧 (mOsm/kgH₂O) = 2 × Na (mEq/L) + 尿素窒素 (mg/dL) / 2.8 + 糖 (mg/dL) / 18 生体での体液浸透圧の調節では、腎からの水の排泄量は主に下垂体後葉から分泌される抗利尿ホルモン (anti-diuretic hormone: ADH) により調節される。ADH は腎集合尿細管で水に対する透過性を亢進し、尿細管側からの水の再吸収を促進して尿浸透圧を上昇させる。 血漿浸透圧が上昇すると口渴中枢が刺激されて飲水を促進するとともに、ADH の分泌が亢進し尿量が減少するため体内総水分量が増加して血漿浸透圧が正常化する。腎での尿濃縮のメカニズムは、腎髄質の集合尿細管は ADH の非存在下では水に対する透過性が極めて低い。髄質部間質には NaCl や尿素で高浸透圧環境が形成されている Na の大部分は細胞外液に存在するため、血清浸透圧を決定する主要な因子となり、高 Na 血症では高浸透圧血症を呈し、低 Na 血症では低浸透圧血症を呈する。ただし、血清 Na 濃度は血清中の Na と水分の相対値で決定され、体内総 Na 量を反映するわけではない。 (日本臨床第 7 版 284-285)			